

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！（4月）

たまねぎ：
ネギアザミウマ

ネギアザミウマ成虫※



えそ条斑病※

特徴

- ◆ 成幼虫が葉の汁を吸い、吸われた痕はカスリ状に色が抜けて白くなる他、えそ条斑病の病原ウイルス（IYSV）を媒介する。
- ◆ 高温少雨時に多発する。

防除のポイント

- ◆ えそ条斑病に対する有効な薬剤はないので、媒介昆虫であるネギアザミウマの防除の徹底をおこなうとともに、感染株を見つけたらほ場外に持ち出し適正に処分する。
- ◆ えそ条斑病の病原ウイルス（IYSV）は一部の雑草にも感染するので、ほ場内や周囲の除草を徹底する。
- ◆ ネギアザミウマの発生を認めたら、グレーシア乳剤、プレオフロアブル、スミチオン乳剤等を散布する。なお、薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

たまねぎ：べと病



べと病（二次感染株）

特徴

- ◆ べと病は好適条件（気温15℃前後で多雨）が揃うと急速にまん延する恐れがあることから、予防散布が重要である。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期にダコニール1000、ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤等を散布する。
- ◆ 発生を認めたら発病株は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分するとともに、バトファイター顆粒水和剤、ホライズンドライフロアブル等を散布する。

令和5年3月24日発出の病害虫発生防除情報「たまねぎべと病」についてもご参照ください。
[http://www.jppn.ne.jp/osaka/R4th/boujyojyouhou/2303_bojo09\(tamanegi_beto\)_soshin.pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/R4th/boujyojyouhou/2303_bojo09(tamanegi_beto)_soshin.pdf)

トマト：コナジラミ類
（黄化葉巻病）

タバココナジラミ成虫※

トマト黄化葉巻病発病株

特徴

- ◆ すず病を引き起こす他、タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）の媒介や吸汁による果実の着色異常等、様々な被害を引き起こす。

防除のポイント

- ◆ トマト黄化葉巻病は、定植後の早い時期に感染すると収量への影響が大きく、株ごと除去する以外に対策がないため、コナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆ 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ ほ場内および周辺の雑草の除去を徹底する。
- ◆ グレーシア乳剤、コルト顆粒水和剤、トランスフォームフロアブル等を散布する。

次回の情報は4月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」<http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫の発生予報（4月）

果樹

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
もも		せん孔細菌病			
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ（発生地域が拡大）				

野菜

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす		すすかび病			
		灰色かび病			
		うどんこ病			
			アザミウマ類		
トマト	葉かび病・ すすかび病				
	灰色かび病				
				コナジラミ類	
たまねぎ				べと病	
		白色疫病			
				ネギアザミウマ	

果樹

もも

せん孔細菌病



春型枝病斑

特徴

- ◆ 春になると越冬した病原菌が増殖し、結果枝が春型枝病斑（紫褐色～紫黒色になり、裂けたりかさぶた状になる）を生じる。
- ◆ 病原細菌は、雨水に混じって分散し、気孔や傷口から感染する。

防除のポイント

- ◆ 感染拡大を防ぐため、開花後に春型枝病斑を見つけた場合は取り除き、園外で処分する。
- ◆ 風当たりの強い園地では、防風ネットを設置する。
- ◆ 多発園では、満開30日後頃までに袋かけを行うと、果実の感染予防に有効である。
- ◆ 落花後に**バリダシン液剤5**や**チオノックフロアブル**、4月下旬～5月上旬に**マイコシールド**等を散布する。

ぶどう（加温栽培）

灰色かび病



発病果

特徴

- ◆ 多湿条件で発生が多くなる。
- ◆ 孢子が雨や風によって飛散、伝染する。

防除のポイント

- ◆ 適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
- ◆ 開花後に花がらを取り除く。
- ◆ 第1回ジベレリン処理から結実始めの間に、地表へビニルマルチをする。
- ◆ 開花直前または落花直後に**ゲッター水和剤**、**スイッチ顆粒水和剤**、**ネクスターフロアブル**等を散布する。

ハダニ類



カンザワハダニ※

特徴

- ◆ 加温機の近くやダクトの先端部等、高温になりやすいところから発生する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、**マイトコーネフロアブル**、**ダニコングフロアブル**、**ダニトロンフロアブル**等を散布する。

ハスモンヨトウ



ハスモンヨトウ幼虫*

特徴

- ◆ 卵は100個くらいの塊で葉に産み付けられるので、卵からかえった幼虫が集団で葉を食べる。
- ◆ 早期加温栽培では3～4月に被害を受けやすい。

防除のポイント

- ◆ 幼虫が集団で発生している葉を切り取って処分する。
- ◆ 発生を認めたら、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、ディアナWDG等を散布する。

クワゴマダラヒトリ



クワゴマダラヒトリの幼虫※

特徴

- ◆ 成虫は年1回、アカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウ等に産卵する。
- ◆ 越冬は、主に中齢幼虫で落葉や樹木の地際部で行う。越冬後、3月以降に幼虫が移動しブドウの新梢や葉を食害する。

防除のポイント

- ◆ 生育初期に新梢の生長点に加害されると、被害が大きいため初期防除に努める。
- ◆ 発生を確認した場合は、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、オリオン水和剤40等を散布する。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等のサクラ属）

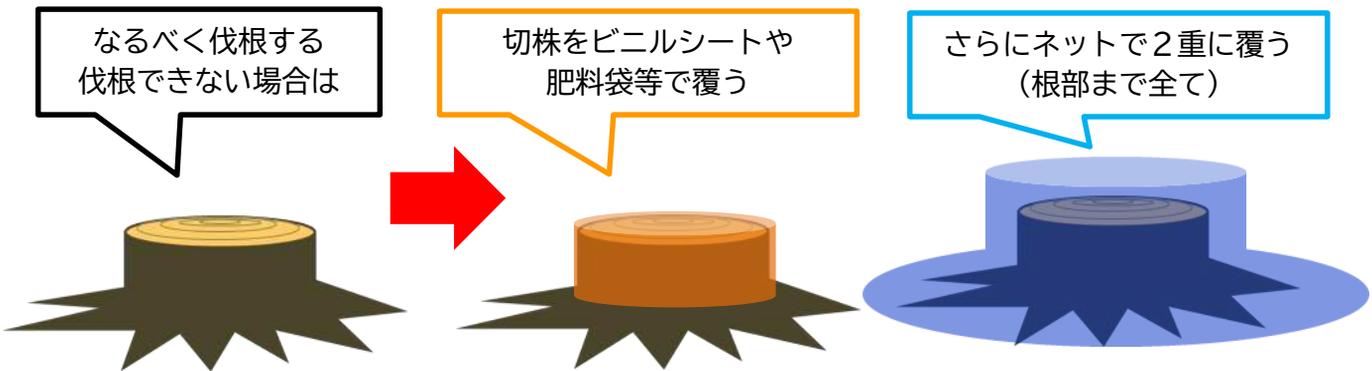
クビアカツヤカミキリ



防除のポイント（被害樹の伐採）

- ◆ 被害が大きい樹は伐採し、破碎や焼却することが望ましい。
- ◆ 伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐ処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。伐採後の切株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぐ。
- ◆ 幼虫は3月下旬から中華麺～うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出すので注意する。
- ◆ フラスを見つけたら、千枚通しや針金を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。

伐採後の切株について



処分に伴う運搬について

- ◆ 本種は特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても、内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、処分のための運搬であっても市町村の指示に従うこと。
- ◆ 市町村焼却施設（もしくは市町村の清掃工場）で焼却可能な場合は、ネットで被覆する等の分散防止措置を実施の上、現地より運搬して焼却する。

防除のポイント（ネットの巻き付け）

- ◆ 被害樹では、羽化して樹から脱出した成虫を閉じ込め他の樹への分散を防ぐため、また、未被害樹では成虫による産卵を阻止するため、成虫が発生する前の5月下旬までに、4mm目合いネットを2重、もしくは0.4mm目合いネットを1重に、樹体とネットに隙間をあけて巻き付ける。

クビアカツヤカミキリの特徴および防除方法の詳細については、下記リンク先をご確認ください。

●技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」

http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/Aromia_bungii_manual_R3.3.pdf

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

野菜

なす（施設栽培）



葉の病斑

特徴

- ◆ 窒素過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生する。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期にベルコート水和剤、フルピカフロアブル等を、発生を認めたらパンチョTF顆粒水和剤、スコア顆粒水和剤、プロパティフロアブル等を散布する。

すすかび病



葉の病斑

特徴

- ◆ 高温多湿になる施設栽培で発生が多い。

防除のポイント

- ◆ 適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ 発生が見込まれる時期にダコニール1000、ベルコート水和剤等を、発生を認めたらスコア顆粒水和剤、パレード20フロアブル等を散布する。

灰色かび病



灰色かび病発病果*

特徴

- ◆ 咲き終わった花卉や幼果に感染しやすい。
- ◆ 20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。

防除のポイント

- ◆ 適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ 発生が見込まれる時期にベルコート水和剤等を、発生を認めたらセイビアーフロアブル20、ゲッター水和剤、パレード20フロアブル等を散布する。

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマが果実や葉を加害する。なお、ミカンキイロアザミウマの果実被害は、「水なす」で目立つ。

防除のポイント

- ◆ 苗からの持ち込みによる発生に注意する。
- ◆ 定植時防除を徹底する（育苗期後半～定植当日：モベントフロアブル、定植時にスタークル/アルバリン粒剤等を施用）。
- ◆ 発生を認めたら、アフーム乳剤、ファインセーブフロアブル、バストガード水溶剤等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

トマト・ミニトマト（施設栽培）

葉かび病・すすかび病



被害葉※表

裏

特徴

- ◆ 日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆ すすかび病は近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、肉眼で見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

- ◆ 多発すると防除が困難なので、発生を認めたら散布が重要である。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、ダコニール1000、ベルコートフロアブル等を散布する。発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤、アフェットフロアブル等を散布する。

灰色かび病



被害葉

被害果

特徴

- ◆ 施設栽培で発生が多い。
- ◆ 20℃程度の多湿時に発生が多く、花がらや果実のがくから発生することで、果実にも被害が生じる。

防除のポイント

- ◆ 開花後の花弁をとり、病原菌の侵入を防ぐ。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、ダコニール1000、ベルコートフロアブル等を散布する。発生を認めたら、ファンタジスタ顆粒水和剤、ゲッター水和剤等を散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jpjn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

たまねぎ

白色疫病



特徴

- ◆ 3～4月に冷涼多雨の場合に多発する。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期に、ランマンフロアブル、ジマンダイセン水和剤を散布する。
- ◆ 発生を認めたら発病株は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分するとともに、ザンプロDMフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤、リドミルゴールドMZ等を散布する。